

短 報

群馬県立自然史博物館寄贈標本から見いだされた群馬県産テバコワラビ
(*Athyrium atkinsonii* Bedd.) とエゾメシダ (*Athyrium brevifrons* Nakai ex Tagawa)

大森威宏

群馬県立自然史博物館: 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 (ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

要旨: 群馬県立自然史博物館に寄贈された標本から過去に群馬県から記録がないテバコワラビ (*Athyrium atkinsonii*) とエゾメシダ (*Athyrium brevifrons*) が見いだされた。これらのコレクションは旧版群馬県植物誌作成資料となったものである。テバコワラビは1955年に吾妻郡六合村野反池で採集されたものである。採集地域の大部分は野反ダム建設に伴い水没し、本種は絶滅した疑いがある。エゾメシダは1958年に利根郡水上町武尊山で採集された。

キーワード: 群馬県, 新産, テバコワラビ, エゾメシダ

Athyrium atkinsonii Bedd. and *Athyrium brevifrons* Nakai ex Tagawa,
newly recorded from Gunma Prefecture, Central Japan

OHMORI Takehiro

Gunma Museum of Natural History: 1674-1, Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma 370-2345, Japan

Abstract: *Athyrium atkinsonii* Bedd. and *Athyrium brevifrons* Nakai ex Tagawa were found in the collection of Gunma Museum of Natural History. These species had not been recorded from Gunma Prefecture, Central Japan. *Athyrium atkinsonii* was collected at Nozori-ike, Kuni Village in 1955. However, most of the collecting area was submerged by the Nozori Dam. Thus this fern possibly has become extinct at the locality. *Athyrium brevifrons* was collected at Mt. Hotaka, Minakami Town. This fern is similar to *A. melanolepis*. It is possible that *Athyrium brevifrons* has been confused with *A. melanolepis* and was not recognized.

Key Words: Gunma Prefecture, newly recorded species, *Athyrium atkinsonii*, *Athyrium brevifrons*

はじめに

群馬県立自然史博物館に寄贈された標本には過去に2度発行された群馬県植物誌が作成された際に中心的な役割を果たした人物のコレクションも含まれる。戸部正久氏は1967年に発行された旧版群馬県植物誌編纂の中心人物で、その標本は旧版群馬県植物誌の基礎資料となっている。しかし、戸部正久氏のコレクションの大部分は植物誌発行後もそのまま再検討されることなく保管されてきた。戸部正久氏のコレクションは群馬県立自然史博物館開館にあたり

寄贈を受け、現在約12000点について再同定とデータベース化が終了している。その中には未同定のままの標本や、採集当時と現在では分類学的取扱が異なる種の標本も多い。中には群馬県植物誌など過去の群馬県のフロラを扱った文献に記録のない種の標本も含まれていた。今回報告する2種類のシダ植物は戸部正久氏の標本コレクションから見いだされたもので、新旧の群馬県植物誌やシダの分布を扱った文献にも群馬県から記録がないものである(戸部ほか, 1987; 平林, 1990; 中池, 1990)。

群馬県産テバコワラビとエゾメシダの標本

テバコワラビ (*Athyrium atkinsonii* Bedd.)

テバコワラビは本州中部～九州中部の山地帯～亜高山帯に分布するが、どの県でも産地が局限され、2007年に発行された環境省レッドリストでは準絶滅危惧種 (NT) に指定されている。群馬県立自然史博物館戸部正久コレクションの中から1955年8月2日に群馬県吾妻郡六合村野反池で採集されたシダの標本4点がテバコワラビと同定された (Fig. 1)。

これらの標本はいずれも種不明のまま新聞紙にはさまれて

いたものである。野反池は1956年に竣工した野反ダム completionによって水没した。このため、テバコワラビは野反池では絶滅した可能性がある。群馬県周辺ではテバコワラビは埼玉、山梨、長野の各県に分布する (平林, 1990)。野反湖に比べて埼玉県東部の自生地が東に、また長野県の自生地が北にあたるため (平林, 1990)、野反湖はテバコワラビの分布北限にも東限にも該当しないが、分布限界域の産地として重要であったと考えられる。

証拠標本：GMNH-BP-51017～51020。



Fig. 1 *Athyrium atkinsonii* from Nozori-ike, Gunma Prefecture (GMNH-BP-51017)

エゾメシダ (*Athyrium brevifrons* Nakai ex Tagawa)

エゾメシダは日本では北海道から本州中部の山地帯上部～亜高山帯に分布するシダである。群馬県立自然史博物館戸部正久コレクションの中から1958年8月2日に群馬県利根郡水上町武尊山で採集された標本からエゾメシダが見いだされた(Fig. 2)。エゾメシダは近縁種ミヤマメシダ(*A. melanolepis*)と鱗片の色以外は酷似しており、しばしば混同する。採集時のメモにも「メシダ」と記入され、同じ採集行程で採集されたミヤマメシダと区別されないまま植物誌資料となった可能性が高い。エゾメシダは本州では中部以北に分布し、群馬近県では福島、長野、新潟の各県に分

布する(福島県植物誌編さん委員会, 1987; 中池, 1990; 大塚, 1997)ほか、近年栃木県からも記録された(吉川, 2003)。このため群馬県にも分布する可能性は高い種であったが、類似するミヤマメシダが普通種であることと相まって注意が払われてこなかった種の一つである。本種の採集地点は現在も比較的環境が安定しておりエゾメシダが現在も生存している可能性は高い。また、類似する環境がある片品村～六合村にかけての地域にさらに自生する可能性もある。

証拠標本: GMNH-BP-51222.



Fig. 2 *Athyrium brevifrons* from Mt. Hotaka, Gunma Prefecture (GMNH-BP-51222)

引用文献

- 福島県植物誌編さん委員会(1987):福島県植物誌. 福島県植物誌編さん委員会, 福島. 481p.
- 平林春樹(1990)テバコワラビ, 日本のシダ植物図鑑6. 日本シダの会, 東京大学出版会, 東京. p. 420-423.
- 中池敏之(1990)エゾメシダ, 日本のシダ植物図鑑6. 日本シダの会, 東京大学出版会, 東京. p. 424-433.
- 大塚孝一(1997)21. イワデンダ科 WOODSIACEAE, 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社, 長野. p. 232-254.
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次・松沢篤郎・須藤志成幸(1987):群馬県自生高等植物目録. 「群馬県植物誌 改訂版」. 群馬県, 153-393pp.
- 吉川 誠(2003):オンダ科, 栃木県自然環境基礎調査 とちぎの植物Ⅰ, 栃木県自然環境調査研究会植物部会, 栃木県林務部自然環境課, 122-140, 宇都宮.